【実施区域・面積】

福島県南会津郡南会津町、999.133ha

【生態系タイプ】

森林（天然林）、森林（人口林）、陸水域（高層湿原・中間湿原・湧水湿地）

【実施区域の状況】

本サイトは福島県南会津郡南会津町にある田代山の一角を占め、山頂には台地状の高層湿原が広がる。2007年にその高層湿原を含む山林の一部が尾瀬国立公園へ指定され、季節ごとにチングルマ、イワカガミ、タテヤマリンドウ、ワタスゲなどの高山植物が見られることから、春から秋にかけては多くの登山客で賑わう。

【目標】

【大目標】出前授業等の環境教育を通じて高層湿原の希少性を啓蒙するとともに、人工林を適正に保育しつつ、希少な高層湿原を中心とする国立公園地域を保全する。

【個別目標】

＜生物多様性価値①公的機関によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場としての価値＞

環境教育による啓蒙活動の他に、尾瀬国立公園協議会に参加すると共に木道整備へも協力し、国立公園区域の貴重な生態系の保護に努めていく。

＜生物多様性価値⑦分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場としての価値＞

環境教育による啓蒙活動の他に、尾瀬国立公園協議会に参加すると共に木道整備へも協力し、国立公園区域の貴重な生態系の保護に努めていく。

植物:イワカガミ、チングルマ、ワタスゲ、ニッコウキスゲ等

＜生物多様性価値⑨既存の保護地域または自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、環境機能や連続性・連結性を高める機能を有する場としての価値＞

国立公園区域と連続し、崩壊の進んでいる斜面とも隣接しているため、適切な保育、森林管理によって公益的機能を強化し、高層湿原エリアを支えるよう努める。

【主な活動内容】

①人工林では適切な間伐の実施により間隔をあけて広葉樹の侵入を促し針広混交林へ誘導する。天然林では風害、雪害等による被害木、あばれ木等を中心に伐採し樹冠ギャップを形成、天然更新を促し多段林を形成する。サイト全体で多層、多種な森林構成により生態系の豊かさを維持していく。

②生物多様性の観点から重要性が高いエリアの中でも、生物多様性の価値が地域レベル・国レベルにおいてかけがえのないものと評価されている場として「特別保護林」にゾーニングし、厳重に保護を行う。

【モニタリング計画】

【モニタリング対象】鳥類、両生類、昆虫類、植物（草本、木本）

【モニタリング場所】①天然生誘導林に設定したルート沿い ②田代山登山道沿い

【モニタリング手法】鳥類：目視・鳴き声確認 両生類、昆虫類、植物（草本、木本）:直接観察

【モニタリングの実施時期】夏期　年1回

【モニタリング実施体制】

管理者である三井物産フォレスト㈱の職員が中心となって実施。

人工林にて皆伐・間伐・路網開設等の作業を実施する際には、事前にチェックリストに基づく調査を実施し、区域の生物多様性の価値の保存に配慮した計画を行うほか、3 か月以内にチェックリストに基づく調査を行い、上記計画の妥当性確認を行うことで、場の生物多様性の価値が維持されていることを担保している。



田代湿原



イワカガミ



林内景観

【実施体制】

三井物産フォレスト株式会社（100%子会社）：
社有林の管理を委託する同社において、全体管理、森林調査、生態系モニタリングの実施。

【計画期間】令和2026年3月～2031年2月